

40代ミセスの45.8%が親の自動車運転にヒヤリ！ ～親の自動車運転免許の自主返納アンケート調査を実施～ 運転時認知障害早期発見チェックリストを掲載

女性のための生活情報紙「リビング新聞」を発行するサンケイリビング新聞社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長 和田直樹）では、「自動車運転免許の自主返納について」アンケート調査を実施。アンケートから見てきた声をもとに、4月22日号のリビング新聞（大阪・兵庫の11エリア発行）で、「親の自動車運転免許の自主返納を考える その運転もう“危険”」を特集しています。

高齢ドライバーの認知症対策を強化する「改正道路交通法」がスタート。高齢者の交通事故のニュースも多くなっている中、読者のヒヤリ体験や、自動車運転免許返納についての話し合いのナマの声とともに、「車のキーや運転免許証などを探し回ることがある」「駐車場で自分の車を止めた位置が分からなくなることがある」「同乗者と会話しながらの運転がしづらくなった」など運転時の行動の変化から認知機能を確認する全30問の「運転時認知障害早期発見チェックリスト30」（特定非営利活動法人高齢者安全運転支援研究会提供）をまとめたWebページも公開しています。

<http://r.living.jp/mrs/osaka/0422drive>

読者アンケートでは、親の運転にヒヤリとした経験がある人は、36.5%。40代で大きく増加しています。「親がいくつになったら、運転をやめてほしいか？」との質問で、一番多かったのが「70～74歳」の29.5%。次いで「80～85歳」という結果でした。運転免許の返納で困ることの上位は、「買い物に行けない」「病院に行けない」「活動の範囲が狭くなる」。ヒヤリ体験などナマの声は、上記Webで公開しています。

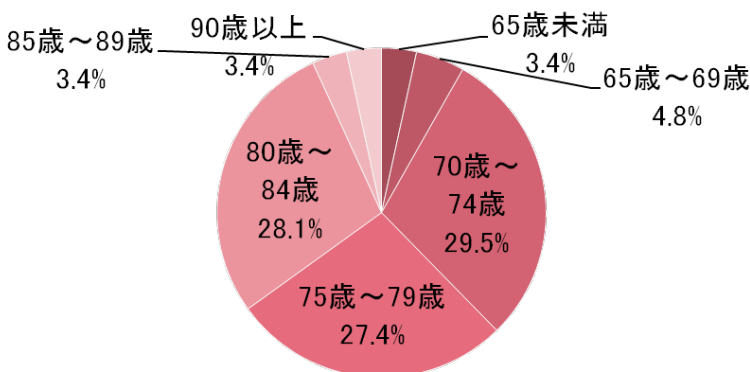
■親の運転にヒヤリとした経験は？（年齢別。%）

	はい	いいえ
20代	16.7	83.3
30代	33.3	66.7
40代	45.8	54.2
50代	42.3	57.7
60代以上	23.5	76.5

■運転免許証を返納して困ること（複数回答。%）

買い物に行けない	45.9
病院に行けない	44.6
趣味の外出など活動の範囲が狭くなる	37.8
バスなどの公共交通機関がない	23.6
特に不安なことはない	22.3
自分など家族の負担が増える	21.6
気力・判断能力が低下する	20.3

■親にいくつで運転をやめてほしい？



■親と自主返納を話し合うときネックになること

※（）内は、回答者の年齢

- ・年を取って頑固になって自分の能力を疑わない。「いざというとき」を理由に月に1、2度しか運転しないが免許は無くしたくないという（51歳）
- ・返納の話をして以来不仲。絶縁状態になっている（60歳）
- ・運転は生き甲斐だから、やめられないという（61歳）
- ・言うことを聞かない。84歳での更新はしないと断っている、本当にそうしてもらいたい（55歳）

※アンケートは2017年2月23日～3月1日に、リビングWebで実施。有効回答数188。

■本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社サンケイリビング新聞社 編集局編集部

担当：天ヶ瀬

TEL：06-6647-2034

FAX：06-6647-2094

E-mail：amgsmisa@sankeiliving.co.jp

